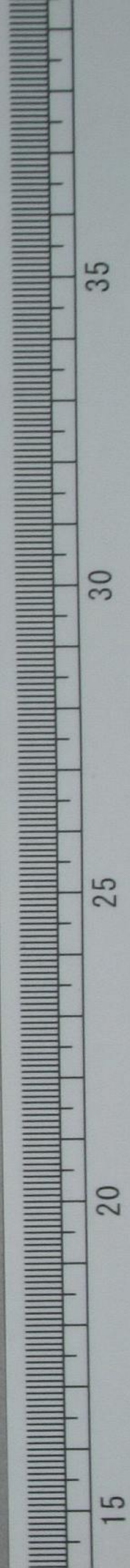




家庭歌唱
大和錦
全



明治期本
柳田文庫
文庫11
A1598



文庫11
A1598



光格天皇御製

あなまのたね

おろそ

あなまの

あなまの

御田原文庫

48-9058

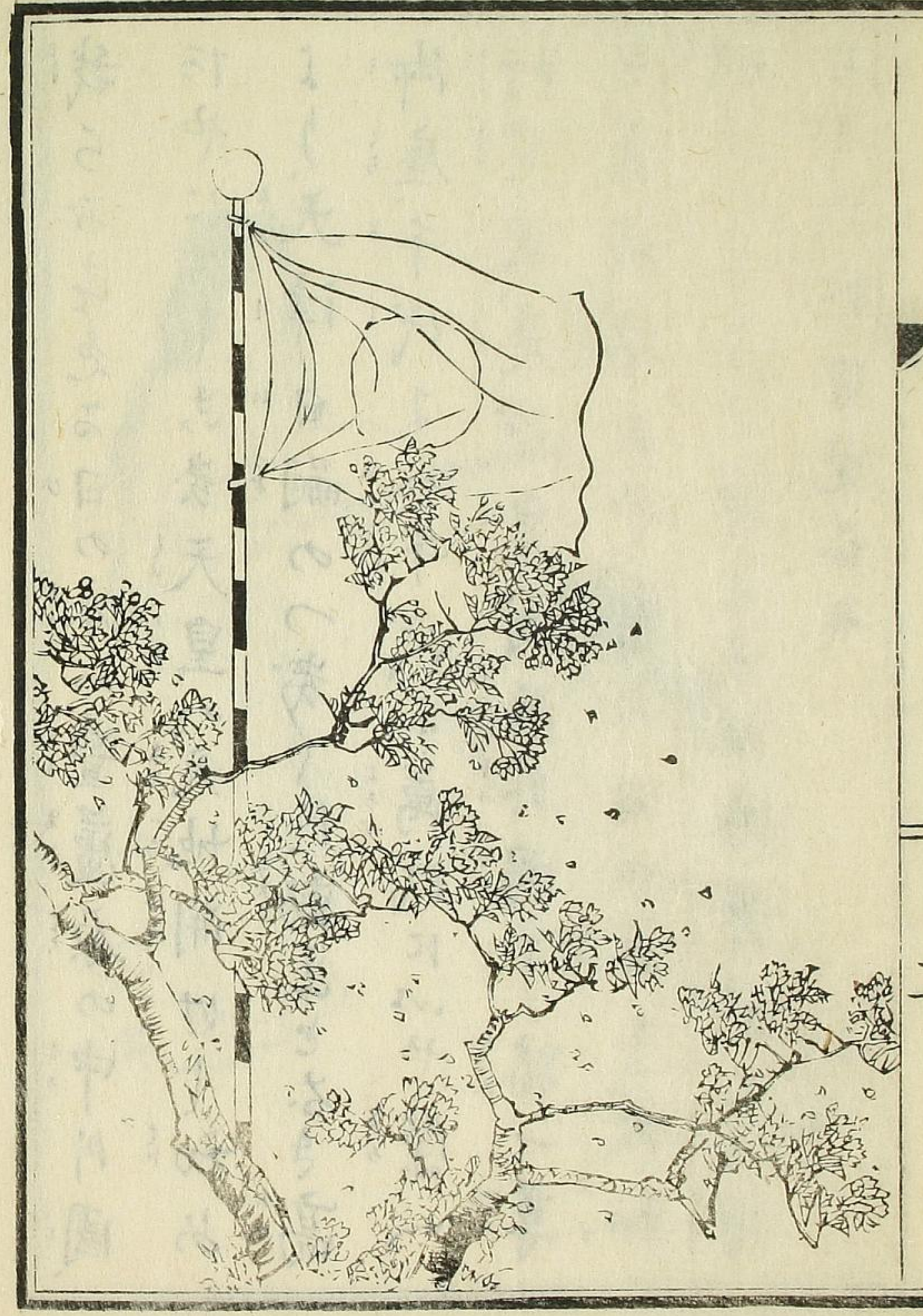
家庭唱歌
大和錦

長瀬氏藏版

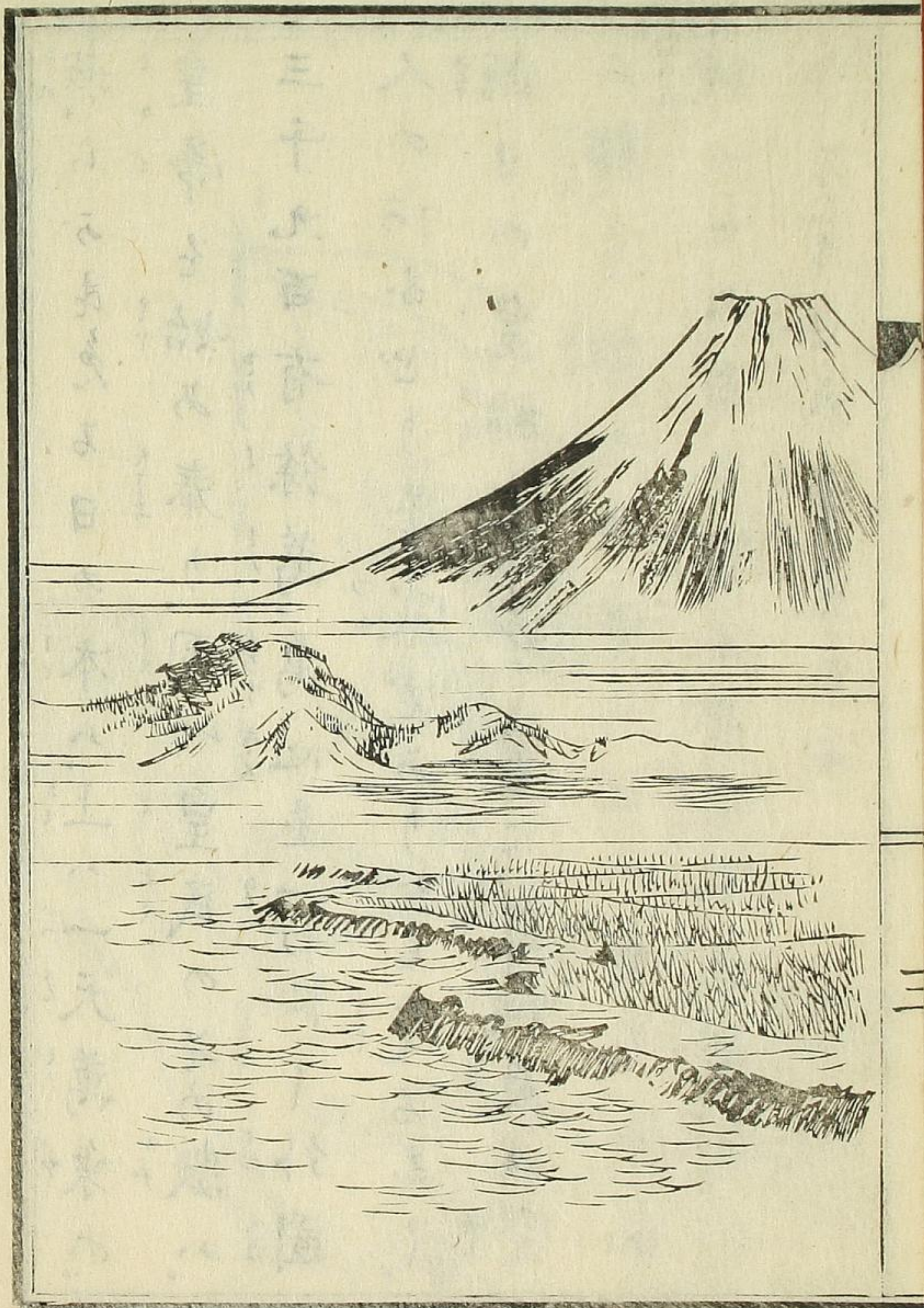
我らふさるる日の本ハ豊原の中川國
 何やにあし未々天皇ハ天地開けし初め
 より天津日嗣のつぎくに動まとなき高
 御座千代ハ八千代ハ萬代に以や榮へ
 行美國是皆皇國比外國より勝て尊
 き美國守れや守れ日本の本を大和
 魂たぢみなく守るそ日本男兒なる守
 るぞ大和男兒なる、



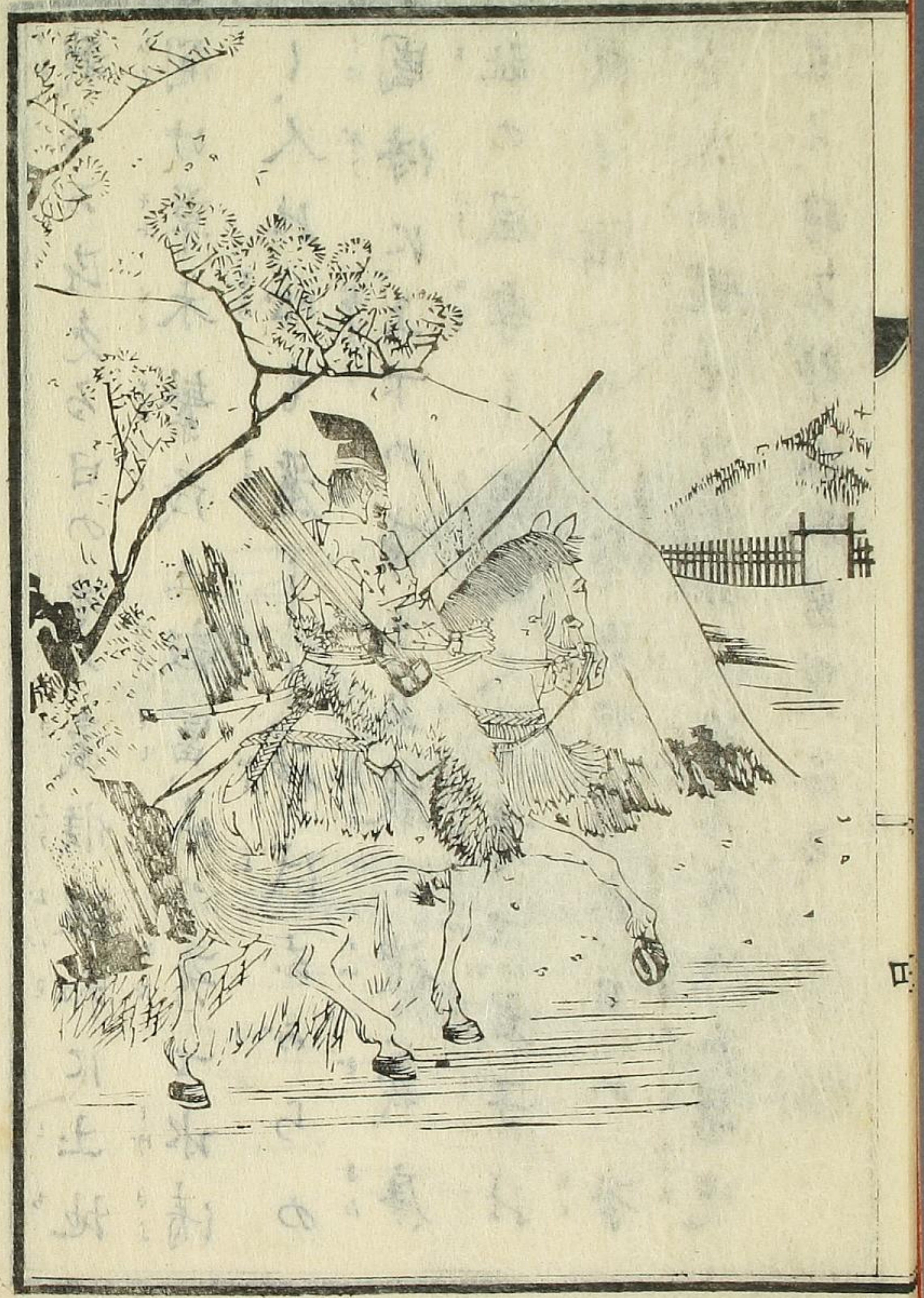
我これらがたたえる日ひの本もとハ上かみハ一いつ天てん萬まん乘りの
 皇みかど帝ていを始はじめ奉たてまつり。國くにの皇みかど民たみのそその數かずハ
 三さん千せん九きゅう百ひゃく有あ餘い萬まん。萬まん心しんを一いつつにし外とつ國こく
 人ひとの何なにもどどりを。露つゆむらりだも受うるふく。
 朝あさ日ひの皇みかど旂しをまくしるゑに。亞あ細そ亞あの空そら
 小こ輝かし。守まもれや守まもれ日ひの本もとを。大やまと和と
 魂たまふたをみかく守まもるぞ日やまと本もと男おの兒こなる。
 守まもるぞ日やまと本もと男おの兒こなる。



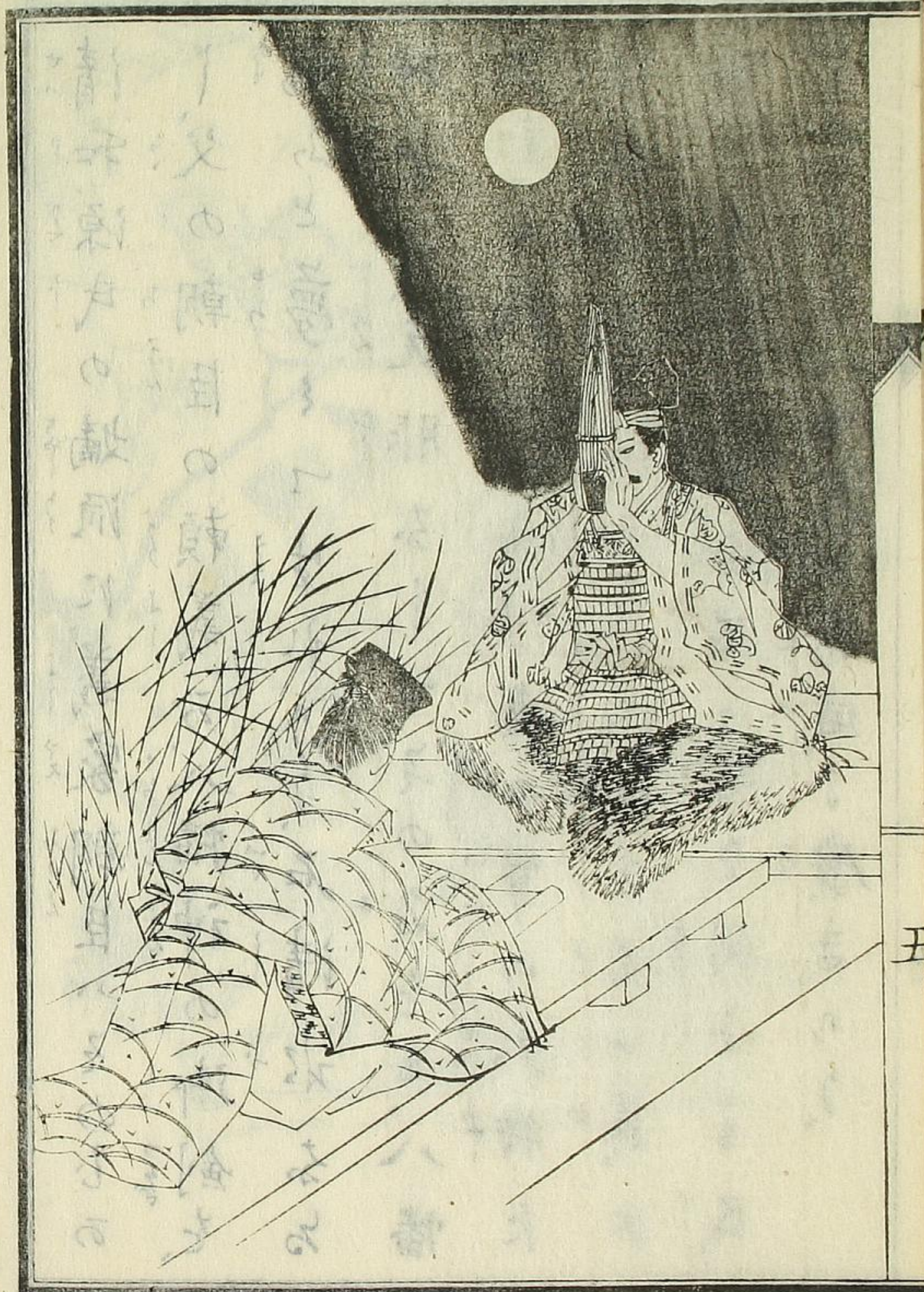
我ら不_レ出_レ免_レる日の本ハ、氣_ニ候_ニ温_ニ和_ニに土地
 開_レけ、草_ニ木_ニ繁_ニ茂_ニ五_ニ穀_ニ富_ニ山_ニハ秀_ニて水_ニ清
 く、人_ニは心_ニも柔_ニく、神_ニ代_ニ亦_ニふらぬ
 國_ニ体_ニに、上_ニ下_ニの亦_ニちめ嚴_ニに禮_ニ義_ニ廉
 耻_ニの風_ニ厚_ニく、異_ニ國_ニ人_ニも尊_ニて、君_ニ子_ニは
 國_ニと稱_ニ一_ニたり、守_レれや守_レれ日_ニの本
 を、大_ニ和_ニ魂_ニたやみあ_ニく、守_レるそ大_ニ和_ニ男_ニ兒_ニ
 なる、守_レる者_ニ大_ニ和_ニ男_ニ兒_ニなる、



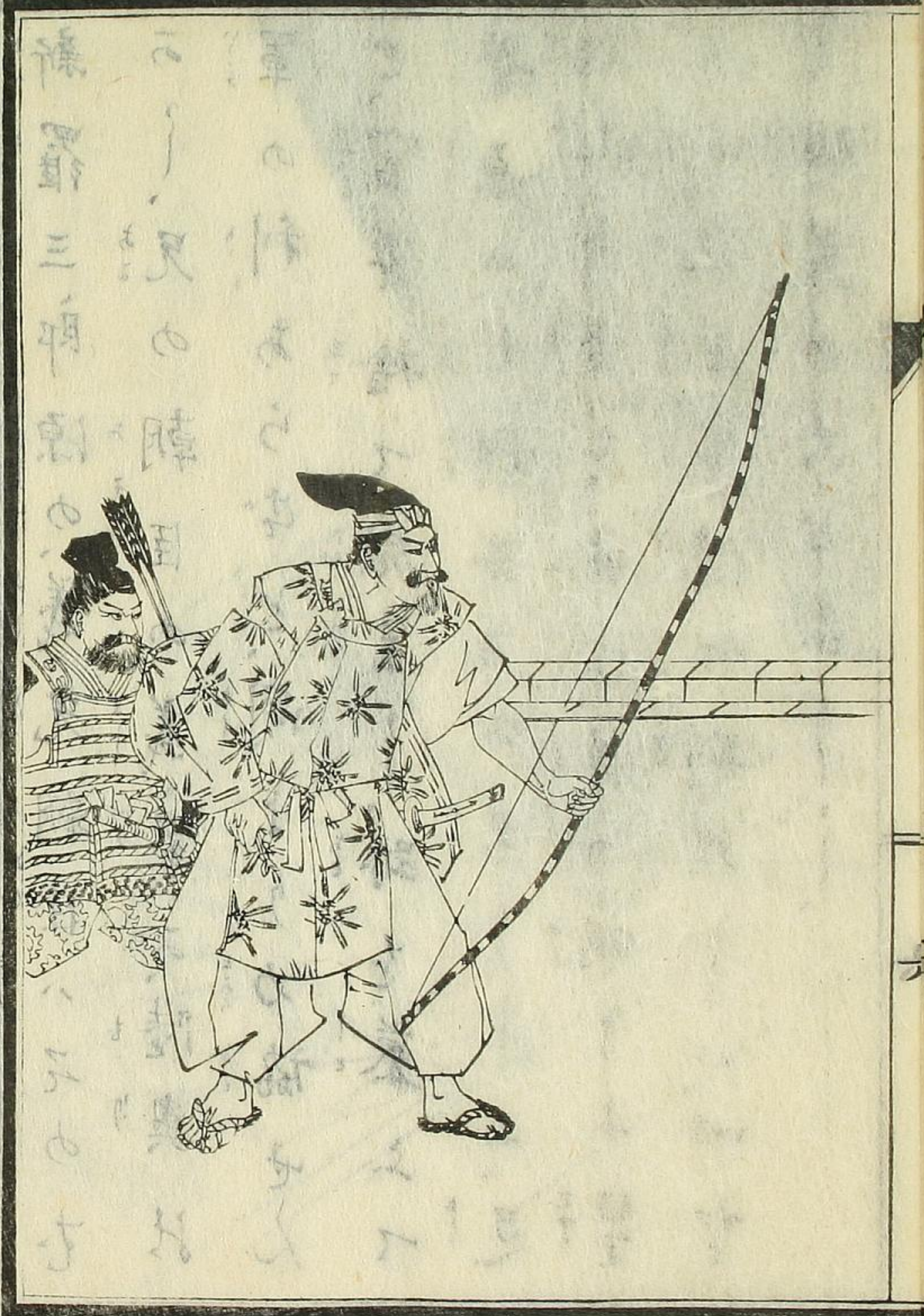
清和源氏の嫡流に、義家朝臣ハそのむの
 し、父の朝臣の頼義の、八幡神の御剣を、
 賜ふと夢みて生れり、石清水なる
 神前に、元服あつてその名を、八幡
 太郎と稱へり、陸奥の軍の大將に
 前後合せて十二年、天地も君の義に
 動き、鬼神も君の忠に泣き、將士も民
 もおしあべし君の恩威に靡きり、

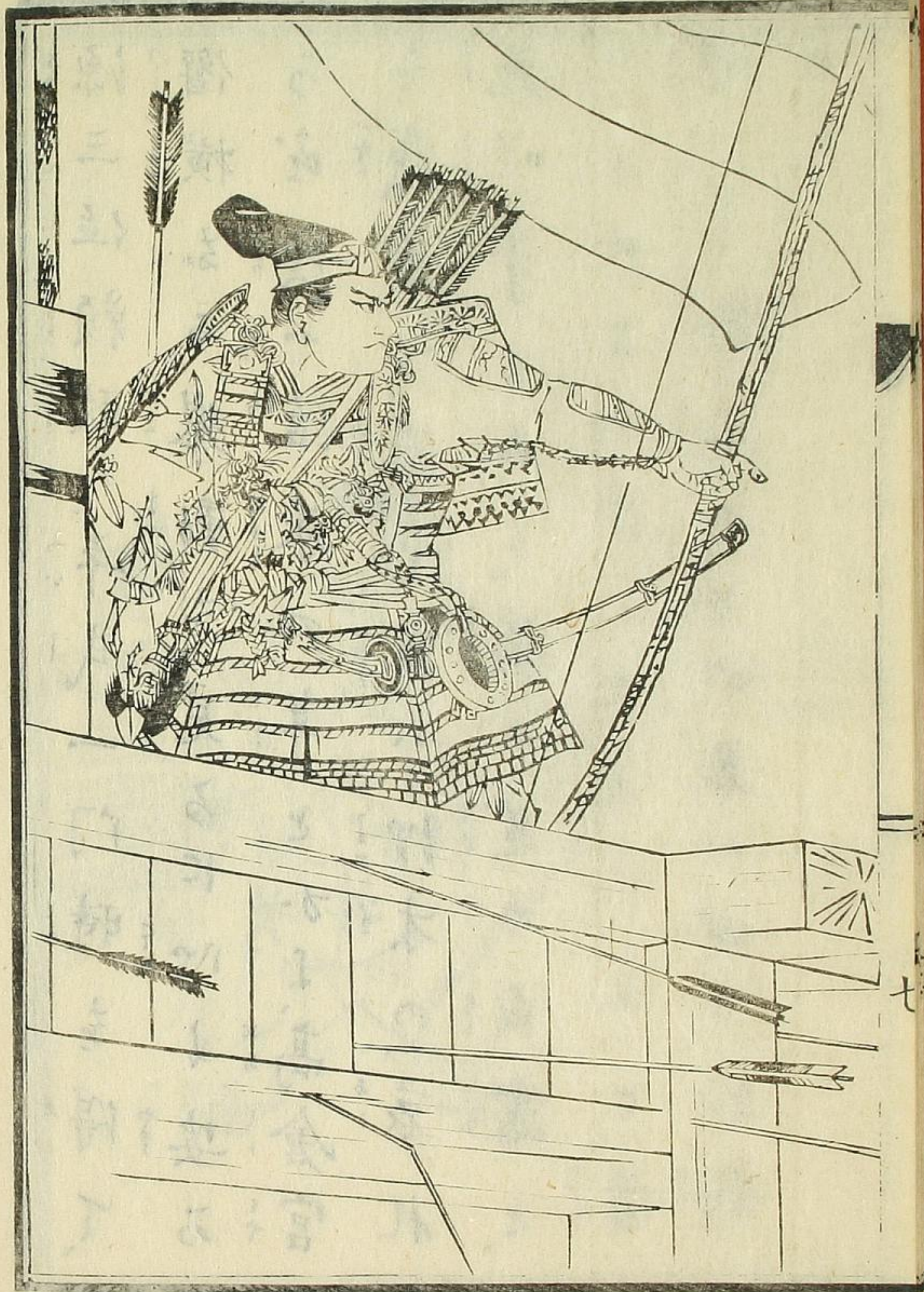


新羅三郎源の義光朝臣ハそのむ
 のし、兄の朝臣の義家ハ陸奥に
 軍の利あらむと、聞より力協せん
 と、官を捨て旅立し、跡を慕ふて
 豊原の時秋なるが来りし、是
 柄山小坐を占て、月の明り小笠
 を吹、秘曲を傳て別れしハ、以
 ち優美の志とありし、



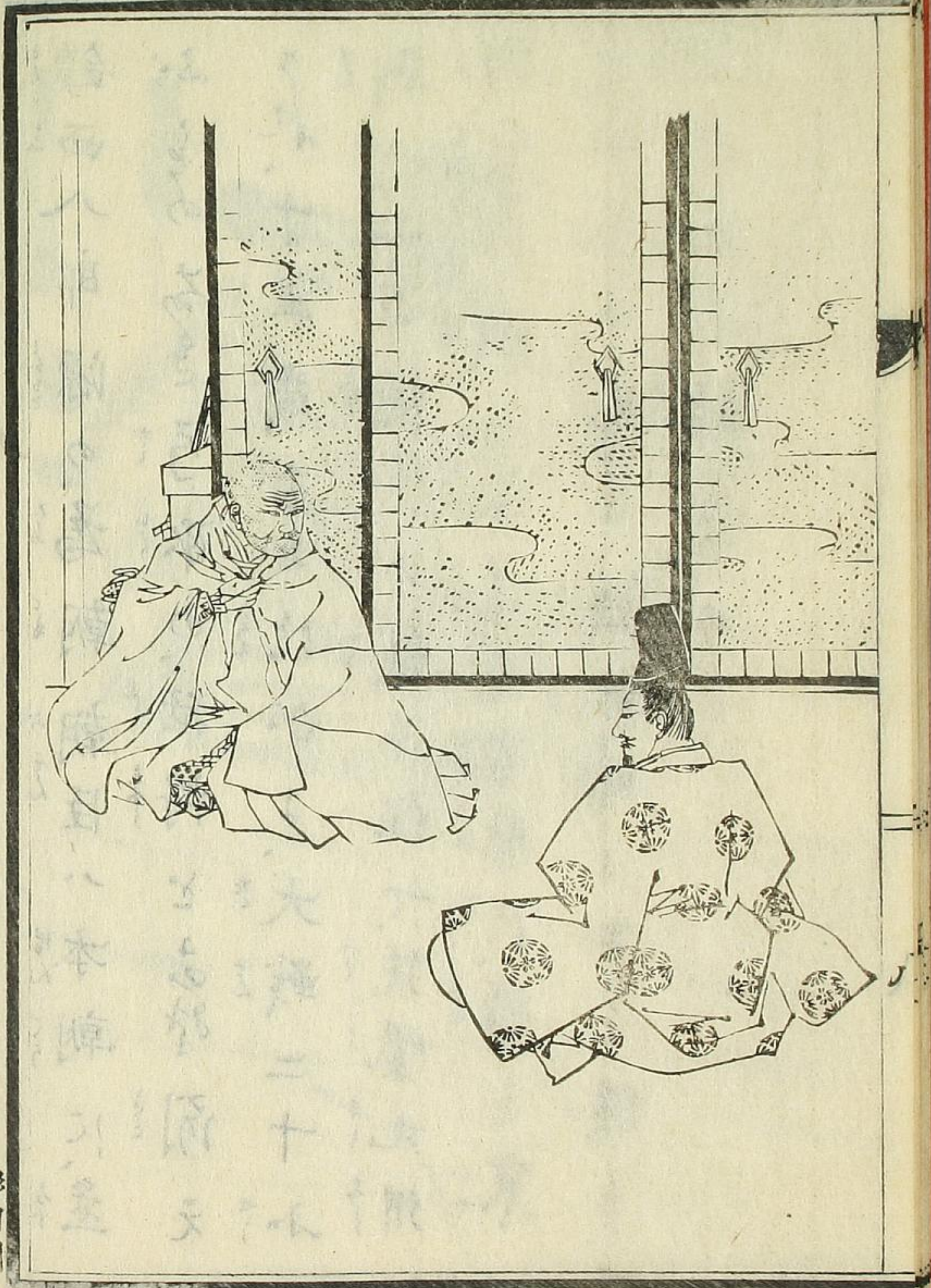
源三位頼政ハ、平氏一門時を得て、
 僭横ふる舉動を、見るに心も安あ
 らむ頃ハ、治承の年とかよ、高倉宮
 を戴きて、擧ぐ軍ハ埋木の哀れ
 死咲事もふく、扇の芝の白露と、
 中もにその身ハきえしあと、首
 唱一し勤王の、その名ハ世々に輝
 り、





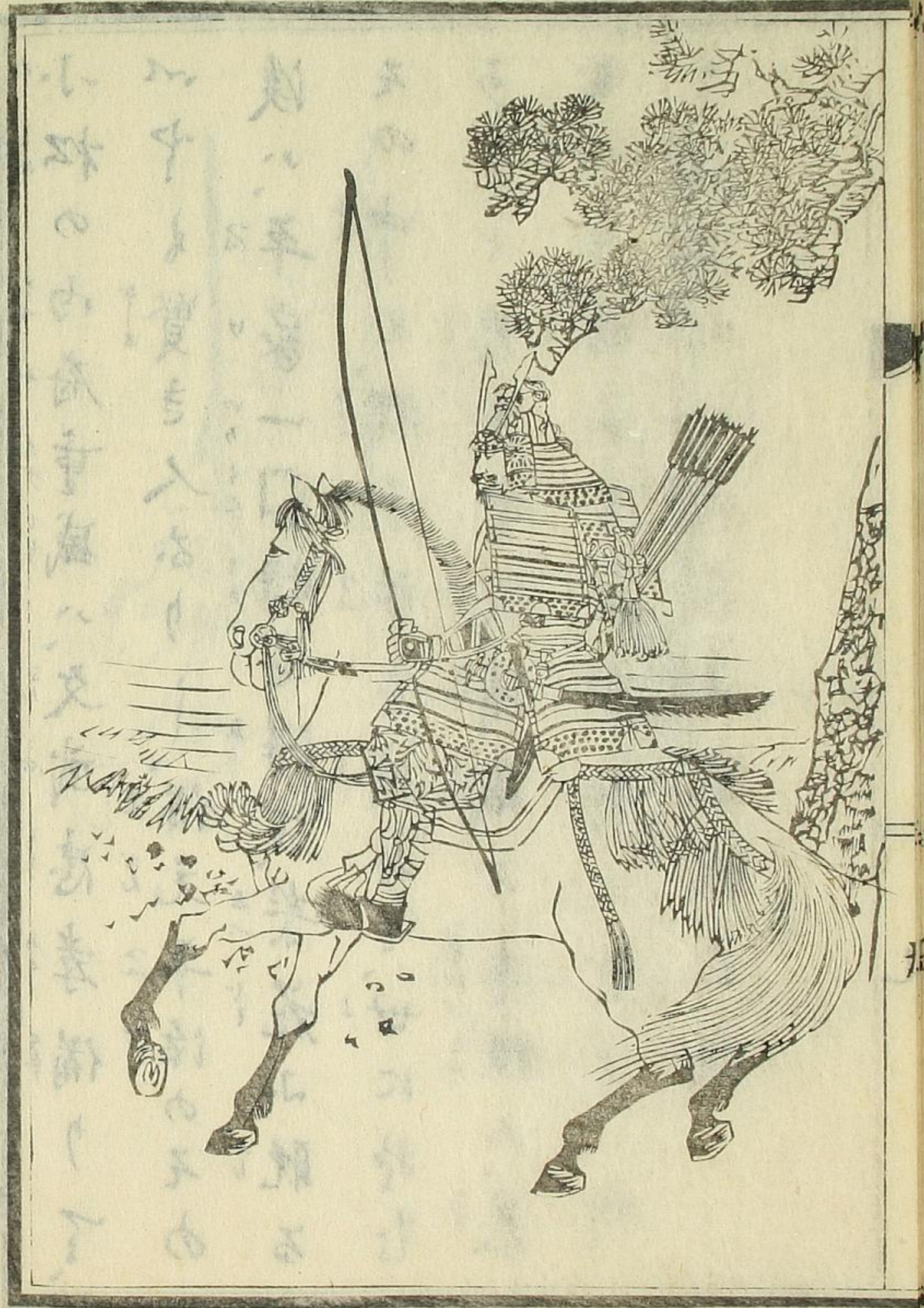
鎮西八郎源の、為朝朝臣八本朝に並
 ぶものなき弓取の、猛将とあはれ聞え
 り、十五歳なる比ひ、大戦二十小
 戦ハ、二百餘りの數を經て、筑紫九州
 討靡け、船をも通さ、弓勢に、膽を寒
 さぬ人もあ、後琉球にお、渡り、
 武き功を残り、

小松の内府重盛ハ文武忠孝備り了、
 以中も賢き人なりし、保元平治のその
 後ハ、平家一門時を得て、紫花小耽る
 その中に、獨子弟を戒めて、世に持む
 ういと思きや、父清盛ハ専横ハ暴
 戾心を諫めらば、能野の宮に祈
 りぬる、心の内あそ哀れなれ、



野田村

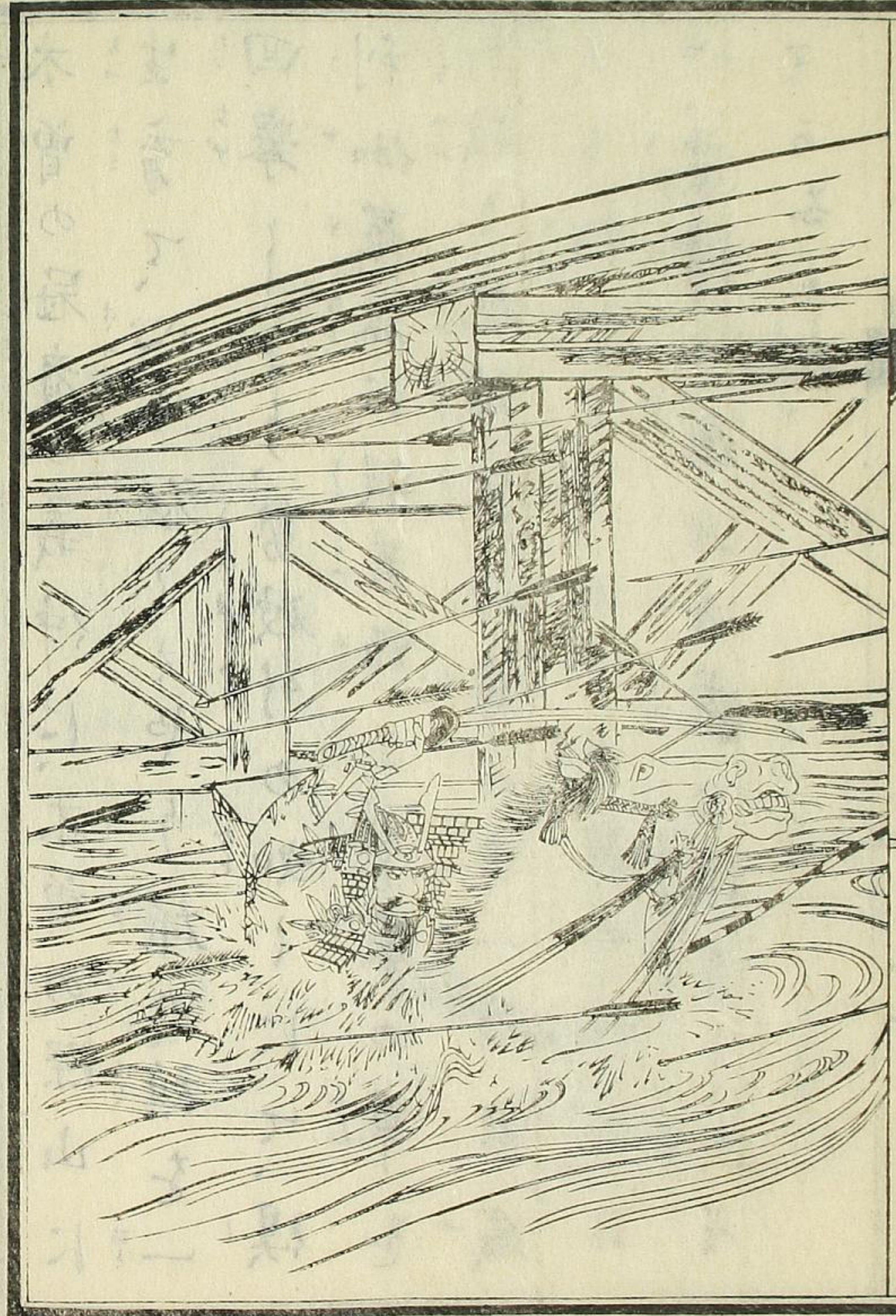
九郎判官源の義経朝臣ハそのむ
 めし、鶴越に壇の浦、家の仇あるま
 氏をば、討亡て會替の辱を雪ぎ
 一のひもあく、梶原父子の讒言に、
 兄頼朝容れられず、陸奥きいて
 天離る、蝦夷の島とおい渡り、ま
 功の武き名ハ、韃靼までも車轉け
 り、

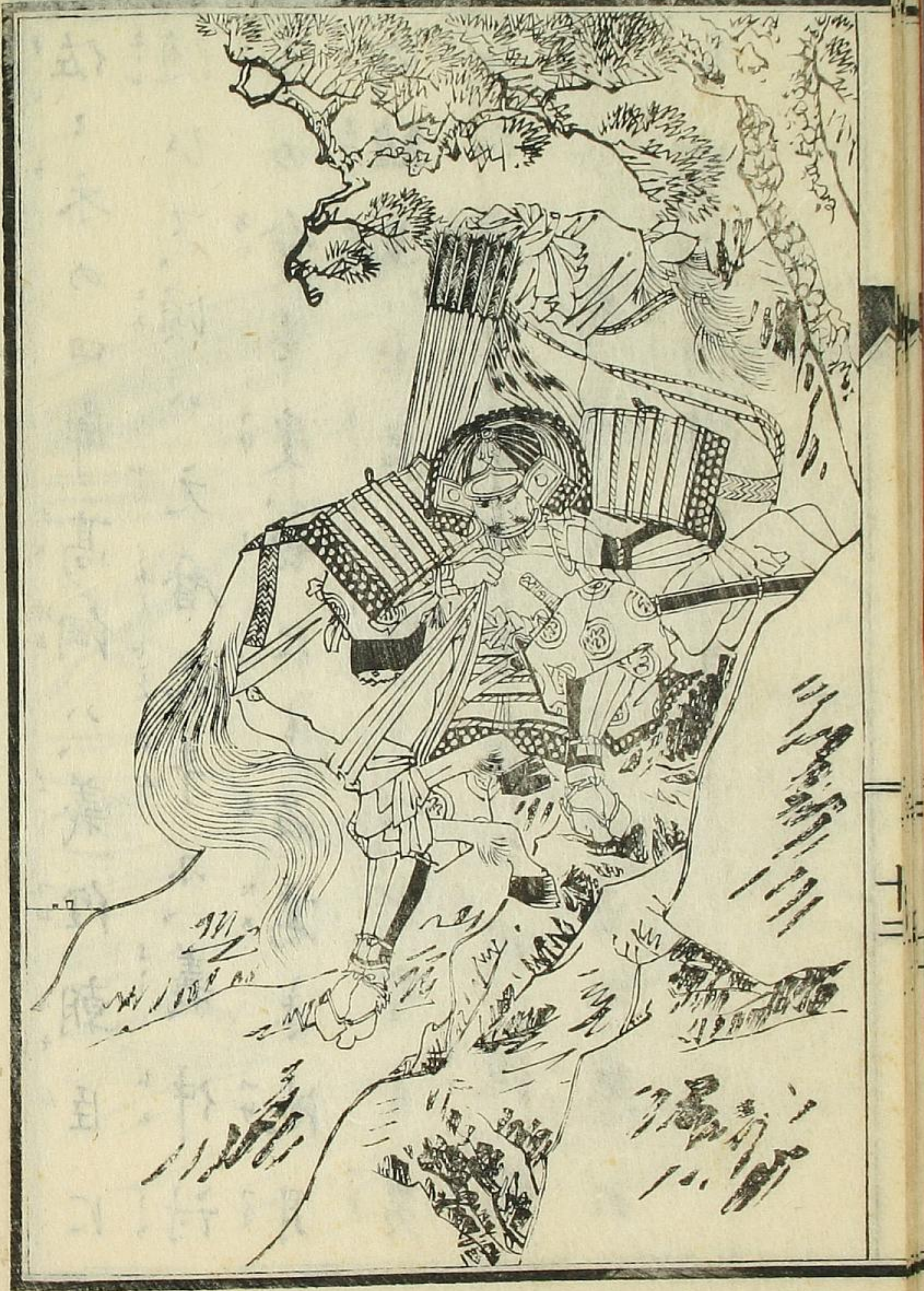


木曾の冠者の義仲は、木曾の深山に
 生育て、心も猛くもやり雄の旗を一
 回擧げ、より、勢破竹の如くにて、俱
 利伽羅谷に般若野よ、平家の軍を
 打破り、旭將軍伊豫の守、一時は威
 武を振ひ、と、世よ元龍の悔ありあ
 や、粟津の原は白露と、消失し、其を
 そめあられ、



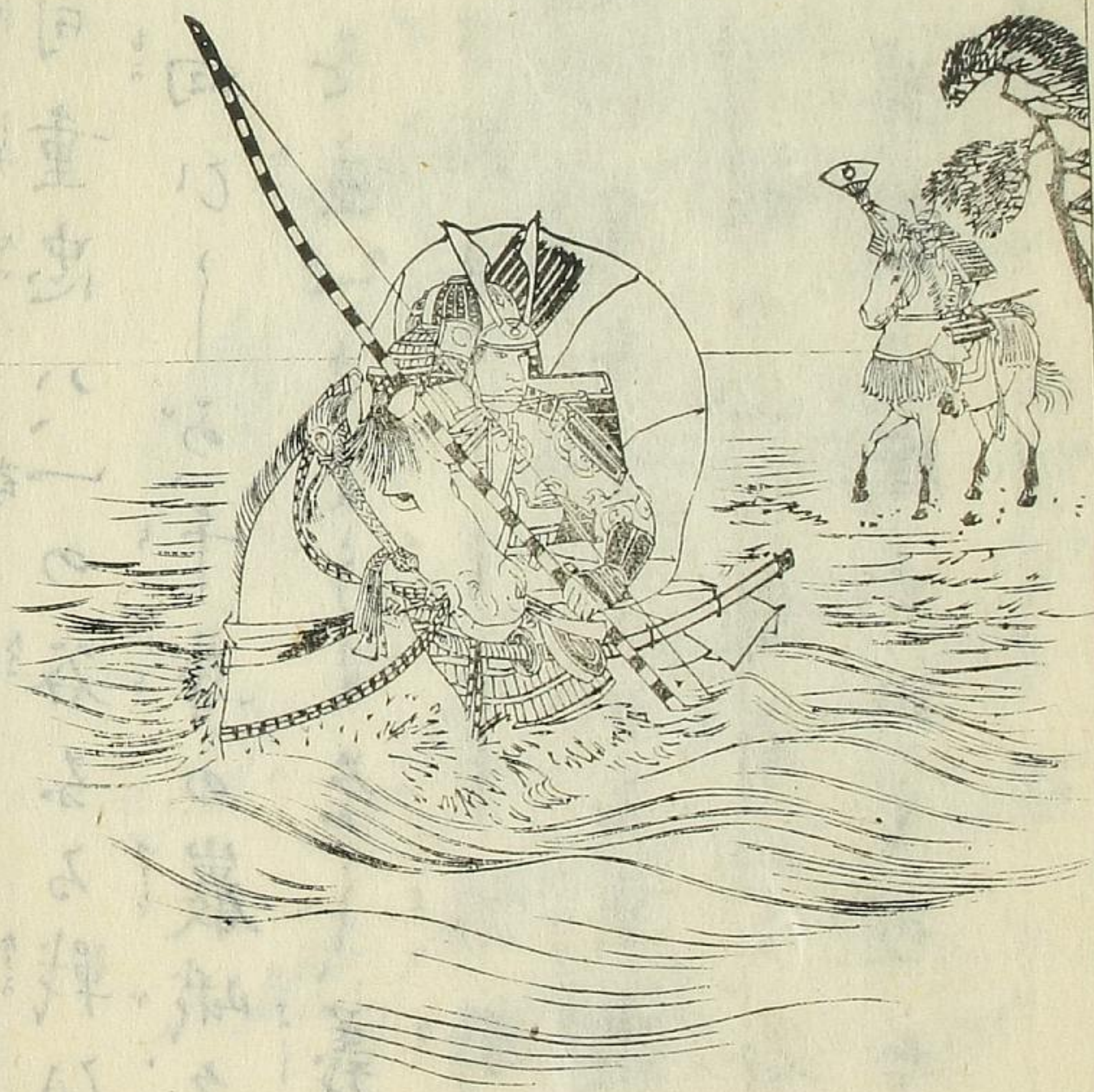
佐々木の四郎高綱ハ、義経朝臣に
 随ひて、頃ハ元暦元年、義仲討
 手の命を受、世にも名高き池月
 の、駿馬を君に賜りて、以て勇
 みに勇とたち、宇治の川波蹴
 互つ、先陣あゝて、武士の譽れ
 を世に傳へり



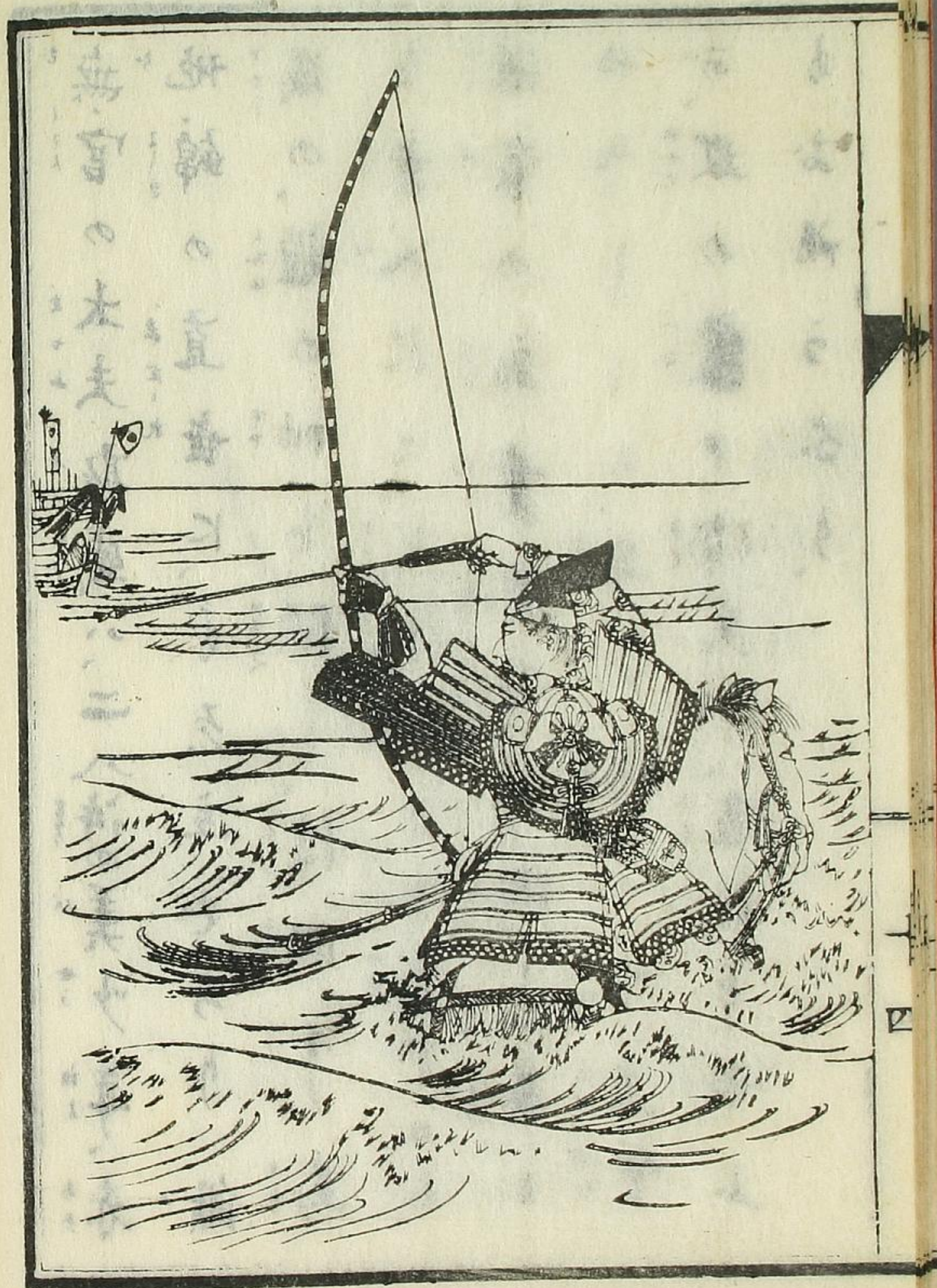


秩父の庄司重忠ハ一の谷なる戦ひ
 り、鶴越に向ひいゝが、千尋の巖峨々
 として、足を立づきよろもなき、義
 経朝臣の下知として、三千餘騎
 其人々ハ、逆に馬を下りける、重忠
 馬を降りて、鎧の上に脊負つ、谷
 を下り、一擧動も感ぜぬものな
 らりりり、

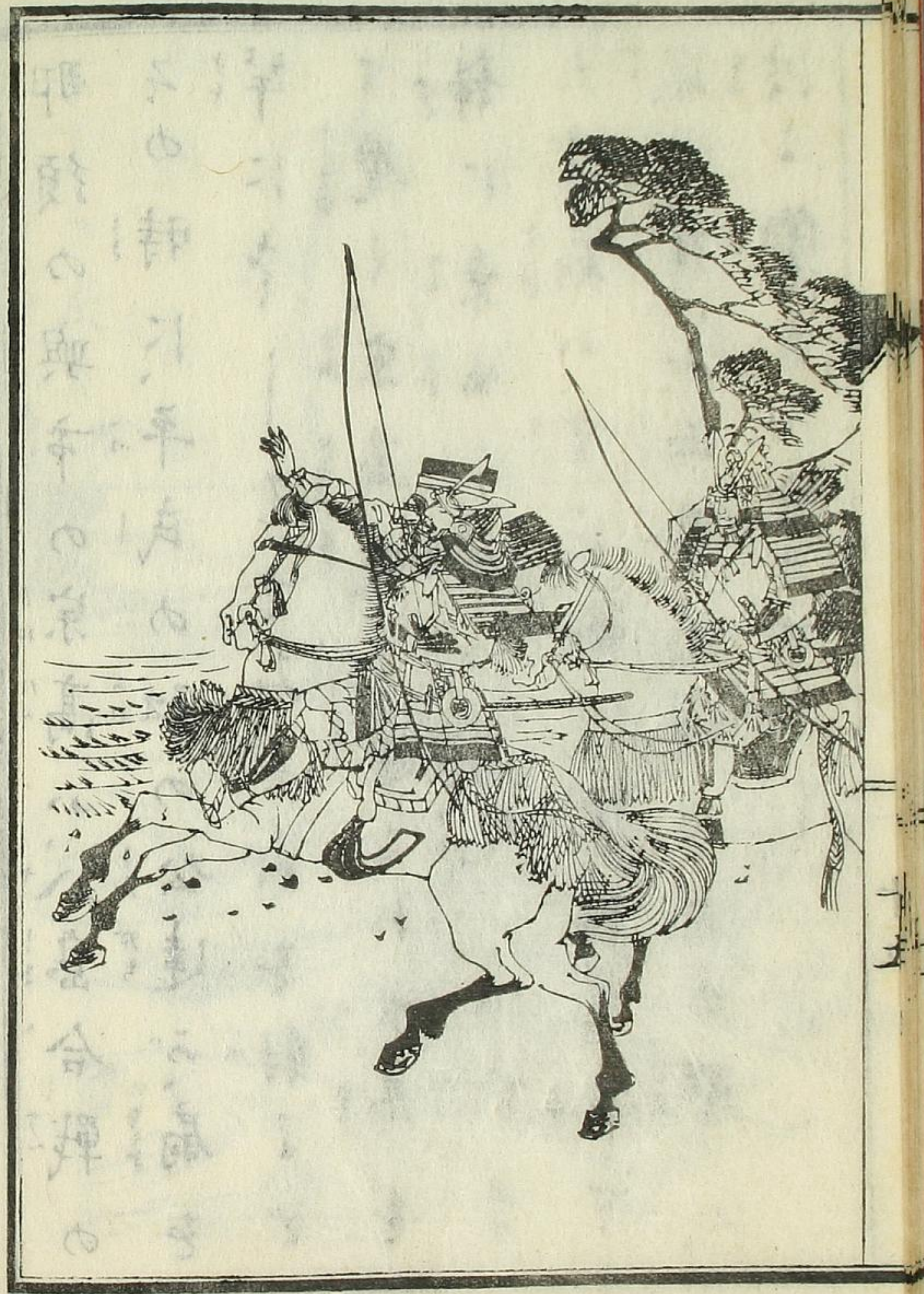
無官の太夫敷盛ハ、二八許の美少年、赤
 地錦の直垂に、もゑ立むらり、
 威の鎧の袖を翻し、波間より馬
 を乗入れて、父の船へと急ぎぬる、
 源家の郎意熊谷お、招く扇小
 やきし、くも馬を返し、丁直實
 の、双の巻と消失し、哀れとゆふ
 もお海うふり、



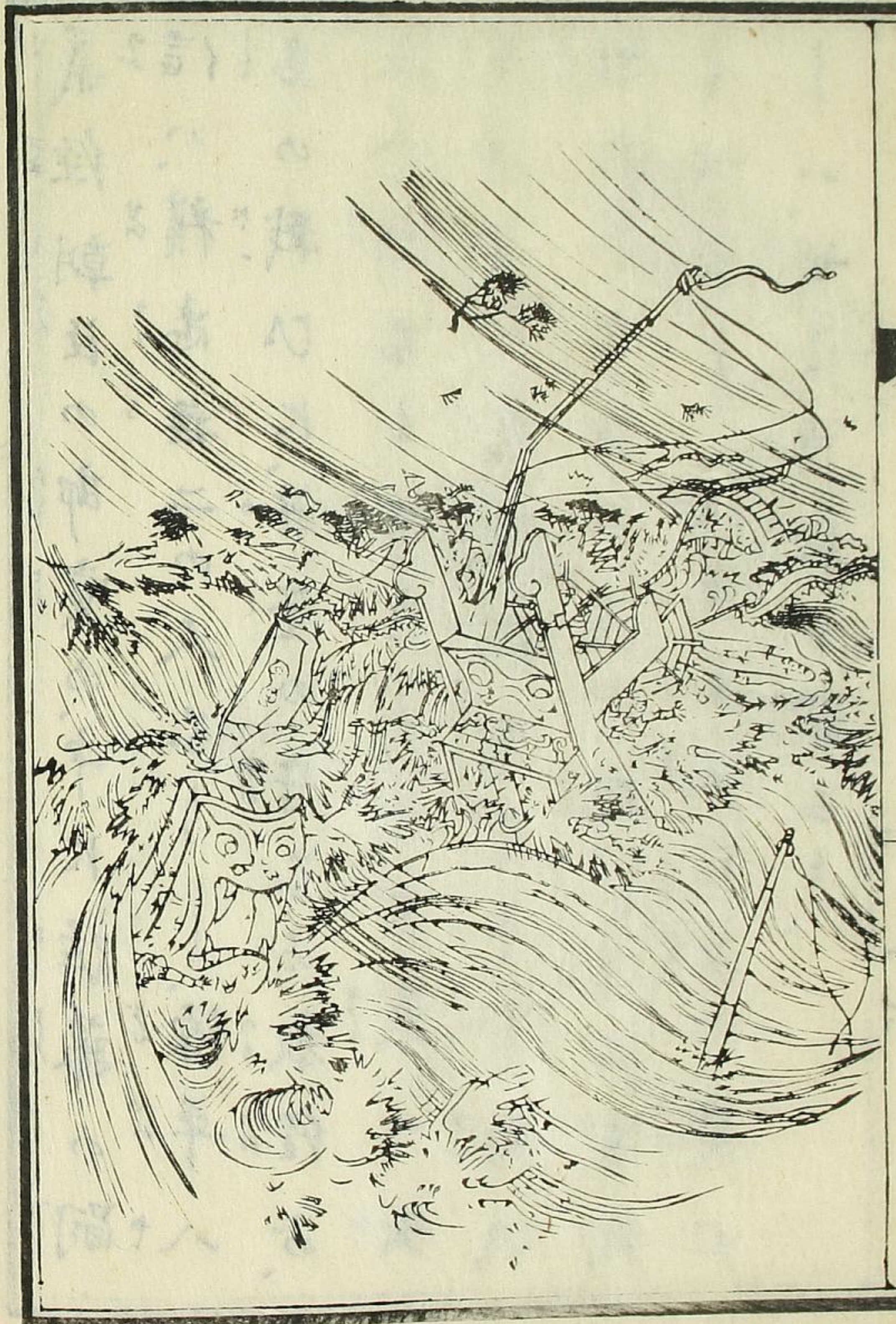
那須の與市の宗高ハ八島合戦の
 その時に、平氏の船の公達ハ扇を
 竿にさし、さみみおれを射よと
 て、麾、宗高衆ハ選られて、馬を
 静に乗出し、放つ矢先ハ何やま
 大空、扇ハ空に翻り、夕陽を受て
 風に舞ふ、兩軍歡呼のその聲ハ、
 波々響きてやまざりし、



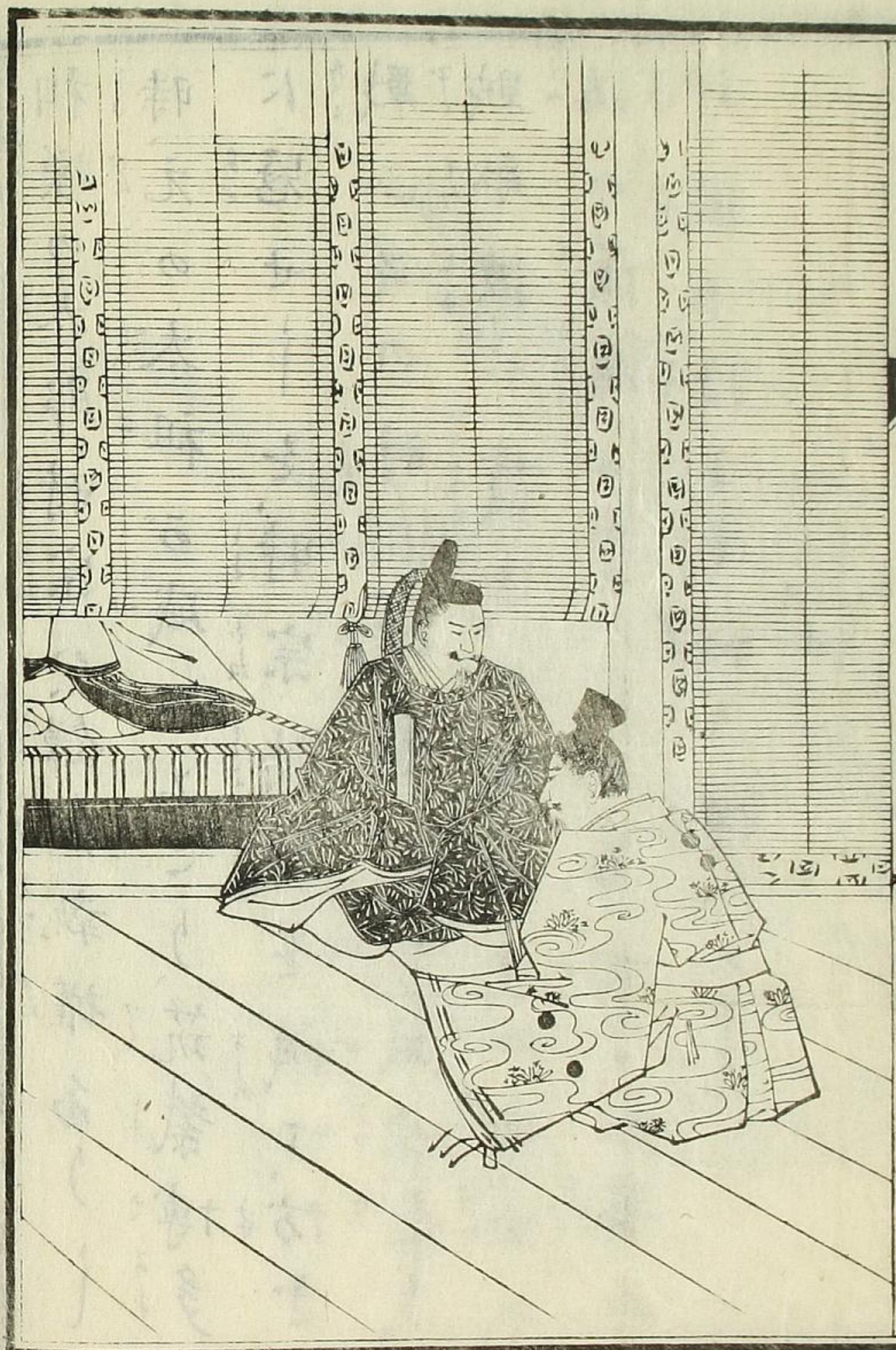
義経朝臣の郎黨の中に佐藤の嗣
 信ハ精忠無二の人なりし源平八
 島の戦ひに能登の守ふる教経が
 五人張ある強弓十三束の矢
 を使ひ、義経朝臣より身城
 放たんとするその時に己の身城
 もておし隔て、矢先に立て、焚
 け、世に忠臣の鑑なり、



相模の太郎時宗ハ、鎌倉執権多りし
 時、元の太祖の威に石こり、筑紫博多
 に寇せしを、時宗諸將を誅て、防ぎ
 戦ふその時に、伊勢の神風吹起り、
 賊船波に覆り、十萬餘りの兵士ハ、
 海の藻屑とふりにひる、世々弘安の
 神風と、後より語り傳へり、

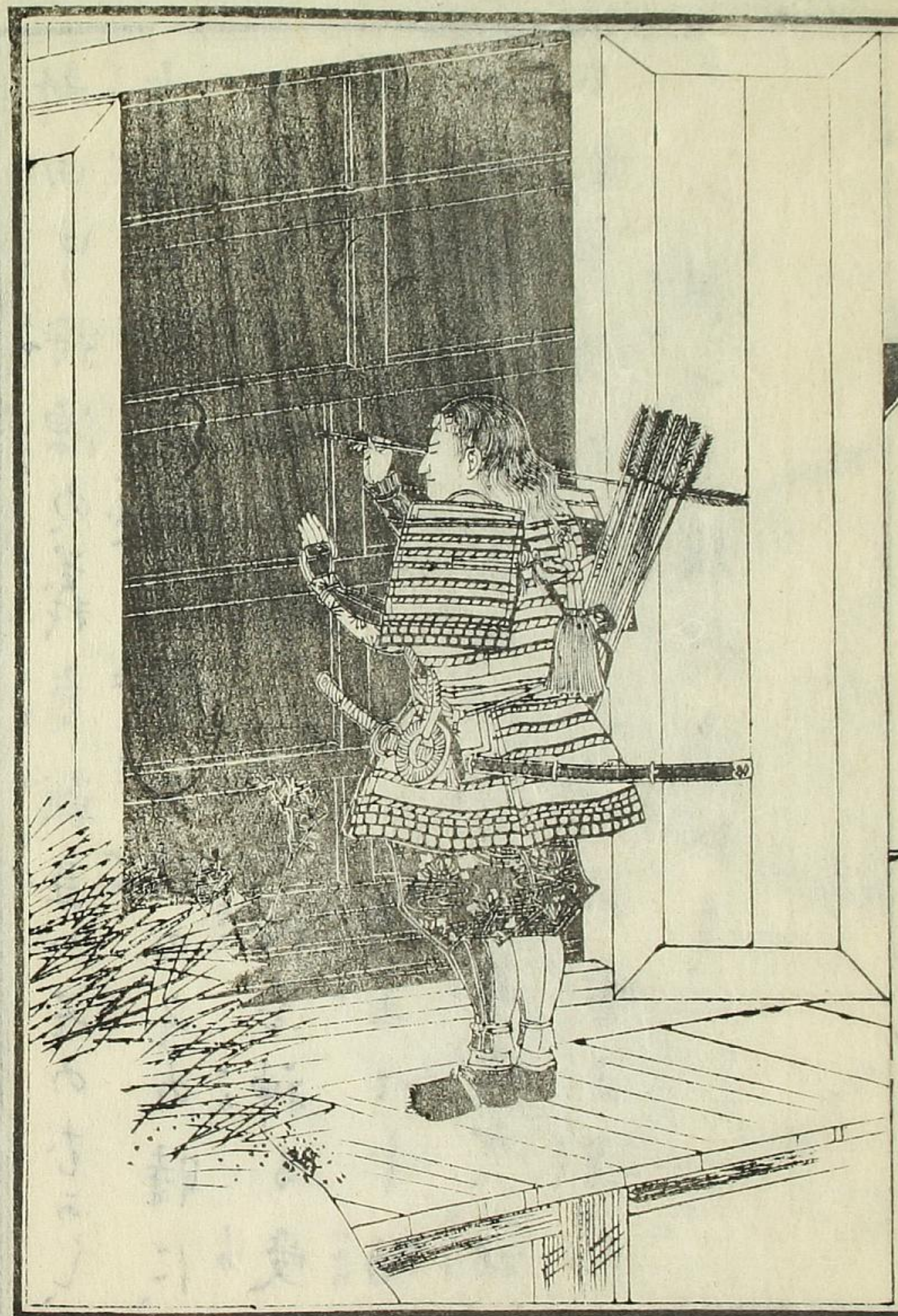


河内判官楠の正成朝臣ハそのむろし、
 赤坂千早にたて籠り、ちまに盡せし
 精忠ハ天地鬼神を感動し、みちた
 みちたる國賊を討平げし勲功ハ
 比類希ある中ふり羨、又も報き
 一尊民可、雲霞の勢に打向ひ一家
 一門打集、湊川をたをれりる、あ
 忠臣の鎧ぞと、仰おぬ人の名ありり、



新田中將源の義貞朝臣ハそのむかし、
 大義の旗を翻し、鎌倉攻のその時に、
 太刀を手向て祈りぬる心を神も受
 玉ひ、かち渡る一き潮干鴻、立てし功
 の甲斐もあらず、再び叛く尊氏不、好族
 る勢を防ぎ不ね、越路比雪と消人
 一ハ、惜ても猶餘りあり、





楠朝臣正行ハ、父の最期さいごの滅ほろを、堅つた
 心に守りつゝ、頃あハ正年せいねん戊子けつしの年、
 家に傳つたへ、菊水きくみづの旗はたを再またび翻ひるがえ
 し、引ひのへきと、梓あづき弓ゆみ、矢竹やたけ心こころ
 の一筋ひとすぢは、羣むらる敵てきは、打向うちむかひ、芳野よしの
 の花はなと散ちりふり、後の世うちのよに、尊たうと
 りて、小楠公せうなんこうと、稱なづへらる。

備後三郎高德ハ笠置の山に勤王
 の旗を一田擧げしより、行幸の蹤を
 慕ひつゝ、何やめもその娘暗の夜
 又、御所の御園に忍び入り、櫻を
 削り真心に赤き心の一花よ、矢
 主の筆の束の間に書残したる
 唐歌は、櫻の花と諸ともに、後の世
 までもかんをきき、



越後の太守謙信ハ軍略智謀儔を、
 甲斐の老将信玄と、兵を結んで解
 難く、秘術を盡す戦ハさあぶら龍
 糸の如きあり、川中島の一戦に、多
 年此恨晴さんと、獅子奮迅の勢カ
 をあし、電光稲妻水の月、刃の下に
 信玄を、撃洩せしぞ遺憾ある、



平の右府信長ハ夙に大志を抱き
 つゝ應仁乱のその以後ハ大義名分
 地ニ墮して、群雄四方に割據せり、信
 長馬を鞭打て、天下の亂を定めん
 と、盡せし大やハ半途にテ、彼光秀
 の叛逆の刃の露と消にしも、太平
 の瑞緒を開きしハ、君が遺せし勳
 功あり、



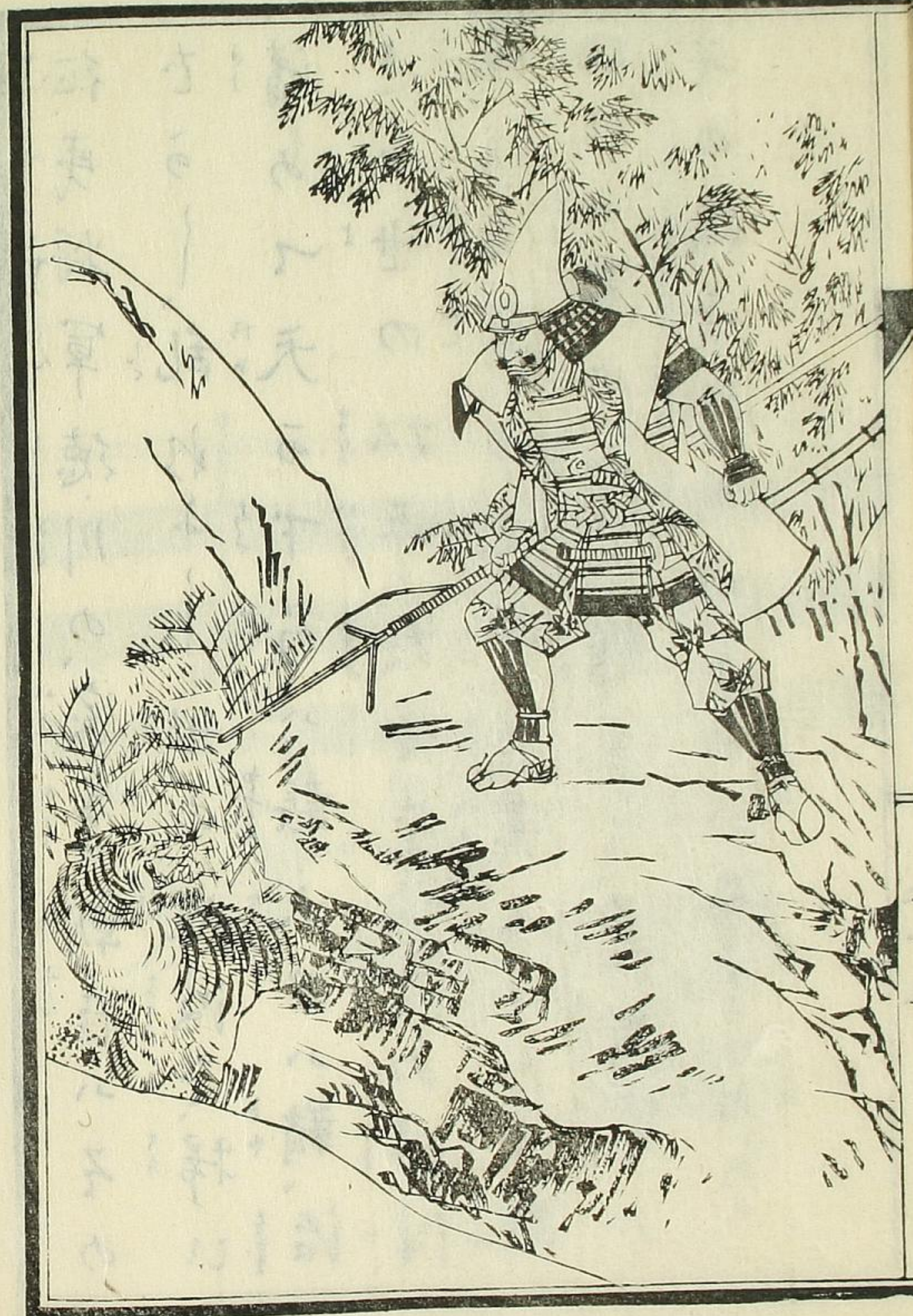
豊臣大閣秀吉ハ始め奴隸に身を起
 し、忽天下を掌握し、朝鮮國を討
 け、威權輝くありさやハ、さるがごと
 の雲を浮て、天に昇るが如くなり、歐
 羅巴に及ぶ那勃翁亜米利加洲にハ
 華聖頓、亞細亞海にハ大閣を、五大
 洲ふる豪傑の、三人とナラそ稱へけ
 れ、



征夷將軍徳川の、家康朝臣ハその
 清め、乱れよ、世の仇波を掃ひ
 清め、天下、弓ハ、鞆太刀ハ、鞘、治
 清め、世の松平、枝も、なぶさぬ時、津
 風、三百年の、太平の、基、なしたる、勲
 功ハ、二荒の山に、輝きて、東照宮の
 その徳を、仰る、奴ものハ、あ、り、り、り、



肥後の太守の清正ハ頃ハ文録正
 韓の、それ先鋒に選れて、忠義の誠
 一とトよ、攻て拔ざる城もあく、討
 て勝さる敵もあく、妙法蓮華の
 旗の手に、民も草木もおく、靡きハ
 道中ハ、車轉きく、その名も高き鬼
 將軍、唐土人と高麗人も、恐れぬ
 ことのハ、あつりりりり、



愛書趣味文庫



010190529067



明治廿四年八月十五日印刷
明治廿四年八月十八日出版

著者兼
發行者

東京府平民

長瀨義幹

東京府小石川區
壹番地居住



印刷人

東京府士族

高田以政

東京府小石川區表町
四三番地居住

東京府日本橋區本町三丁目十一番地

金港堂

賣捌所

同小石川區傳通院前大門町三十五番地

青山堂

二十六

定價金拾錢

